

# 絆

赤井むつみ後援会便り第20号

2013年9月 発行

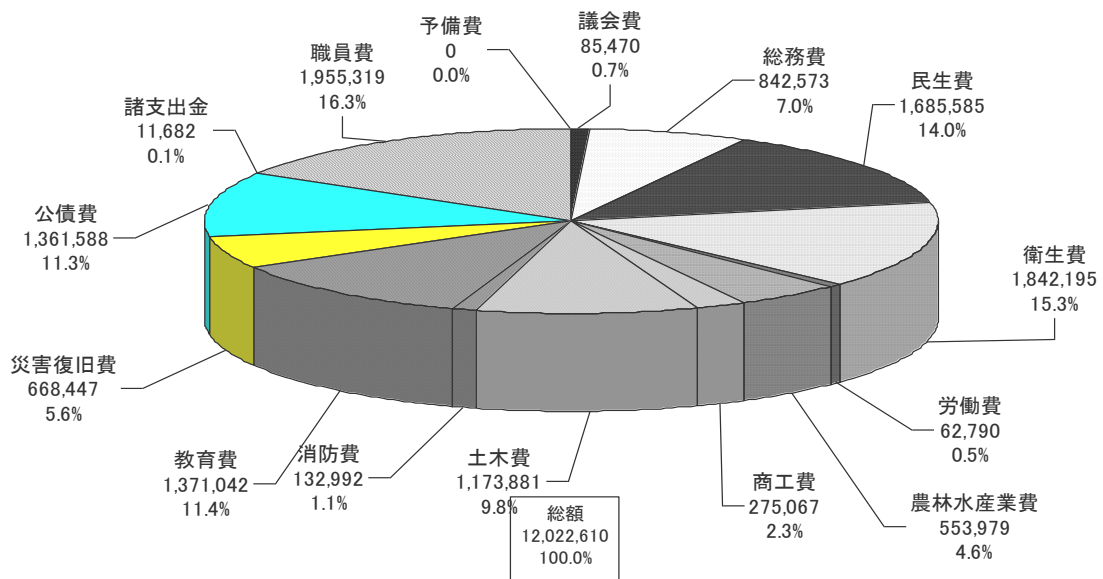
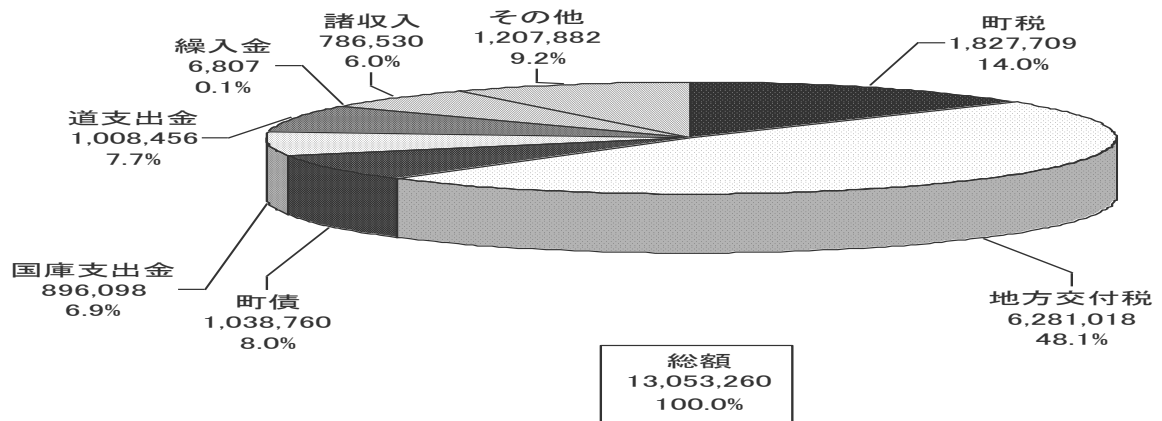
笑顔あふれる温かい町に！



## 今年度は9億1千万円貯金！（基金積立）

一般会計 収入（歳入）130億5326万円（昨年は131億6748万円）

支出（歳出）120億2261万円（昨年は123億9797万円）



9月の定例会では、決算特別委員会が開かれ、24年度の決算について、議会で審査・認定をしました。事業の見直しや経費節減で、約10億936万円を残し、その中の9億1千万円が貯金(基金積立)。平成18年度には、10億4600万円だった貯金が、約40億円となりました。財政的には安心のように見えますが、職員の給与を削減し、事務事業の見直しをしながら、節約をして貯めたもので、決して余裕のある状態ではありません。今年の夏に八雲小学校の新校舎が完成し、現在は総合病院の精神科病棟の改築中、そして本館等改築や熊石国保病院の看護師宿舍建設、熊石福祉センター建て替え、橋の補強など、大きな建設が待っています。『水道料や国保税、更に消費税までが値上がりしようとしているのに、建物ばかり新しくしていいの?』という声も聞かれます。

皆さまからお預かりした大切な税金が、皆さまの幸せにつながるよう、議会としてもしっかりとチェックし、私自身もしっかりと勉強しながら提言していきますので、今後もいろいろなご意見、ご指導をよろしくお願い致します。



4年前に初めて議会へ送り出していただいてから、議会の内容を少しでもお伝えしようと思い、この会報『絆』を発行してきました。内容はとても未熟で、いつも印刷しながら「これを配布するにはあまりにも恥かしいのでは?」と思っています。しかし、どんなに未熟でも、発信しなければ何も伝わらないと思い、恥を掻き捨て配布させていただきました。「いつも読んでいますよ」「ちゃんとファイルしています」「わかりやすいね」など、温かいお言葉に支えられ、今回で20号になりました。お寄せいただいたご意見を一般質問として提出させていただいたり、この会報を作成・配布するためにも、たくさんの方たちのご協力をいただきました。まだまだ未熟な私が今日までの4年間なんとか活動することができたのも、たくさんの皆さまのおかげと心から感謝しております。そして、この未熟な会報を毎回お読みいただいた皆さまにも心から感謝しております。本当にありがとうございました。これからも皆さまと共に考え、話し合い、行動しながら「笑顔あふれる八雲町」を目指し、努力していきますので、どうぞよろしくお願い致します。4年間、本当にありがとうございました!

### 『絆をつくる会(後援会事務所開き)』を開催します!

9月24日(火)午後7時より、住初町の高木水産さんの倉庫をお借りして、「絆をつくる会」を開催します。みんなでいろいろな夢を語り合い、それを町づくりに結びつくよう、できるだけ形にしていきたいと思っていますので、是非、お気軽に足をお運びください! お待ちしております!!

# 今回の一般質問

## 1. 『職員数の適正化を』

町民にとって身近に感じる町行政は、町民にただ負担を求めるだけではなく、町民の生活をしっかりと直視し、きめ細かでやさしい行政サービスができるかどうかということが、重要なことだと思います。一方で、そうしたサービスを行なう側の行政職員の働く環境がしっかりと守られていなければ、やさしい行政サービスを行なうことは難しくなります。夕張市の財政破綻以来、第2の夕張にならないようにと、八雲町も行財政改革に取り組み、その結果、平成18年に10億4,500万円だった基金が、24年度決算では約42億円となりました。もちろん、そこには町民皆さまのご理解・ご協力もありましたし、町長初め職員の給与削減、退職者不補充という職員の協力もあったと思います。このことは財政健全化のためには仕方のなかったことだとは思いますが、仕事量も増えている中でこれからもこのままのやり方で、やさしい行政サービスができるのか疑問に思います。

川代町長が先頭にたって行ってきたまちづくりは、10月で幕を閉じることとなりますが、これまでの業績を総括した上で、今後の八雲町にとって、適正な職員数は、どうあるべきかについてお聞きいたします。

### 町長

行政がきめ細かな行政サービスを心がけることは当然のことであり、私も職員には常日頃、窓口に来た町民の方には挨拶のほか、親切で丁寧な対応、何かが起こったときは、すぐに現場に出向き対応するよう指導しています。行政需要については、少子高齢化や経済情勢の変化などで、住民ニーズがますます増大し、国の施策においても増加しているのが実態です。町においては、合併により組織機構や事務事業見直しの中で、職員を削減していますが、医療制度改革の中で保険制度の改正や包括支援センターの設置により保健師を増員、税の徴収方法や収納対策、観光施策の推進などにより職員を増員しながら対応しています。適正な職員数を推し量る事は、その時々々の国や町の施策、産業構造などによって変わっていくものなのでなかなか難しいのですが、今後も多様化する住民ニーズに応え、行政サービスが低下しないように進めていきます。

### 総務課長

国や道に提出する書類に追われ、職員が地域と関わるのが少なくなってきました。これ以上職員を少なくすることはできず、今が限界だと思います



国も道も財政難の中、八雲町だけが余裕ある財政運営を出来るわけがありません。しかし、破産宣告することのないよう、職員も町民もいろいろと考え、工夫しながら、何とか心豊かに過ごせる八雲町を目指しましょう！

そのために、私も皆さんの声にしっかりと耳を傾け、努力します。

## 2. 『高齢者への水ぼうそうワクチン接種の推進を』

今、八雲町では約8種類のワクチンが無料で接種できるようになっていますが、そこには水痘ワクチンは含まれていませんでした。その結果、北渡島における今年の水痘は、インフルエンザにつぐ多い患者数となりました。また、治療費も1歳児で1人約1万円かかり、国保会計にも負担がかかっています。しかし来年4月から水痘ワクチンも無料で接種できるということで大変良かったと思っています。ただ、水痘ウイルスは、病気が完治したからといって消滅してしまうのではなく、脊髄神経根に静かに隠れていて、50歳代以上の方で、体力が落ちた時に「带状疱疹」として、現れてきます。宮崎県での研究報告では発症頻度を計算すると80歳までに3人に1人が带状疱疹を経験することとなり1997年から2006年の10年間で患者は23%増加していると発表しています。带状疱疹の場合も水痘同様、治療薬はありますが、その痛みは激しく、また、全带状疱疹患者の約10%が带状疱疹後、神経痛の状態となり、6カ月以上、時には10年にもわたって痛みを我慢しなければならない例もあるとのこと。一度、水痘に罹った方でも高齢になった段階で水痘ワクチンをうつことにより带状疱疹の発症を確実に低くできるという報告があり、実際、米国では带状疱疹用ワクチンとして実用化されています。日本の水痘ワクチンも、米国の带状疱疹用ワクチンと同等の効果が期待できます。高齢者が带状疱疹を発症することなく、その苦しみや痛みから解放してあげられるよう、高齢者への水痘ワクチン接種を積極的に町は勧めるべきだと思うのですが、いかがでしょうか。

### 町長

水ぼうそうのワクチンに関しては、国が定期接種とした場合、八雲町としてもすぐに対応できるように、総合病院の小児科と相談しながら準備を進めています。高齢者の水痘ワクチンに関しては、今後、町広報やホームページなどで啓発していきませんが、任意接種のため7000円は個人負担となります。

### 再質問

水ぼうそうと带状疱疹の関係は、ほとんどの方が知らないもので、1日健康の集いや、ふれあい広場などの時に、専門医にお話しをしていただくことは考えられないのでしょうか？もっと、総合病院と連携して、事業を進めることでより安心して過ごせる町になると思いますが、いかがでしょうか？

### 町長

今後も病院としっかりと連携をとって、進めていきます。



赤井むつみ後援会連絡先 八雲町住初町126

FAX=62-3632 電話=080-5588-2090 (赤井)

赤井自宅 栄町56-12 ☎ 63-2090